

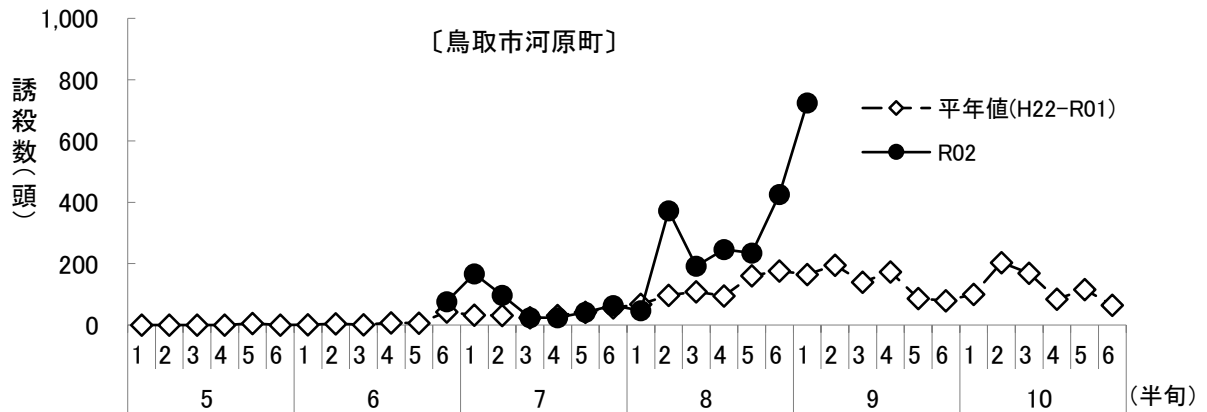
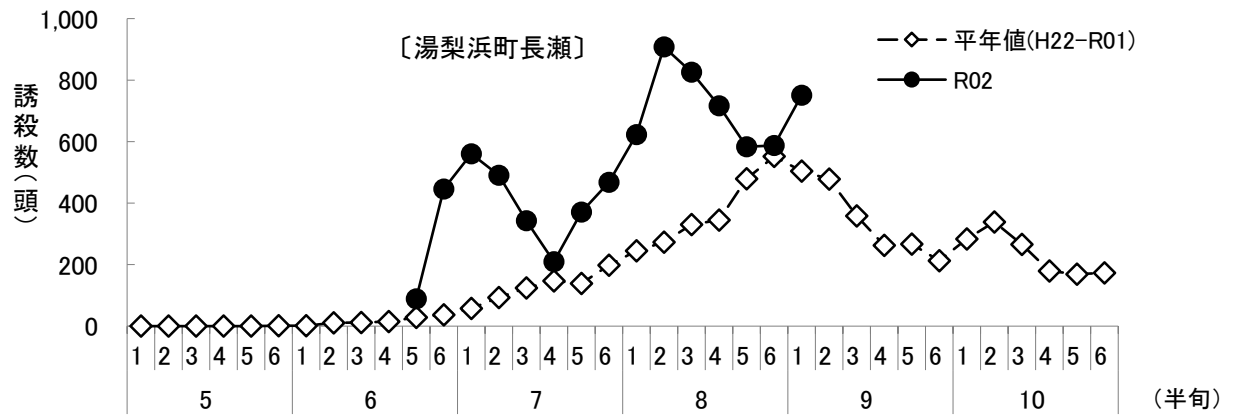
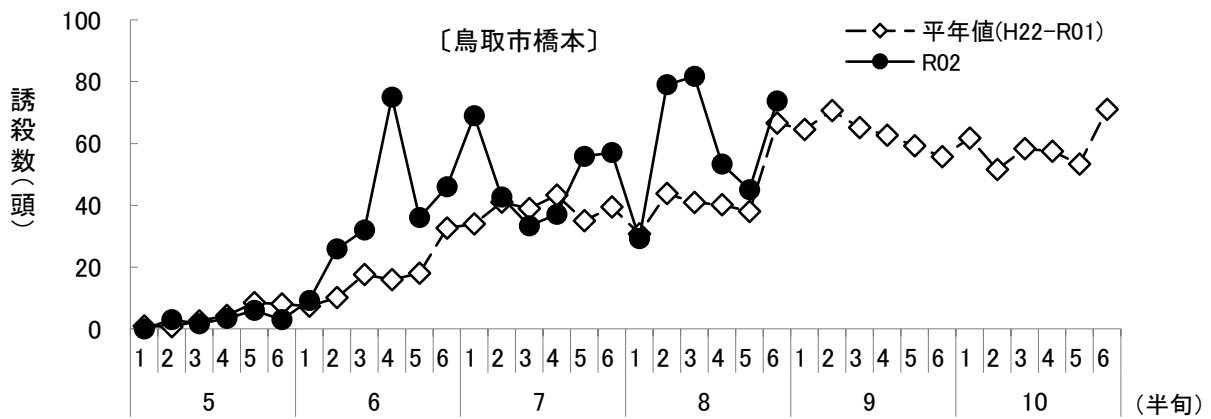
令和2年度病害虫発生予察指導情報
対象病害虫：ハスモンヨトウ No.1 (ダイズ、野菜)

令和2年9月8日
鳥取県病害虫防除所

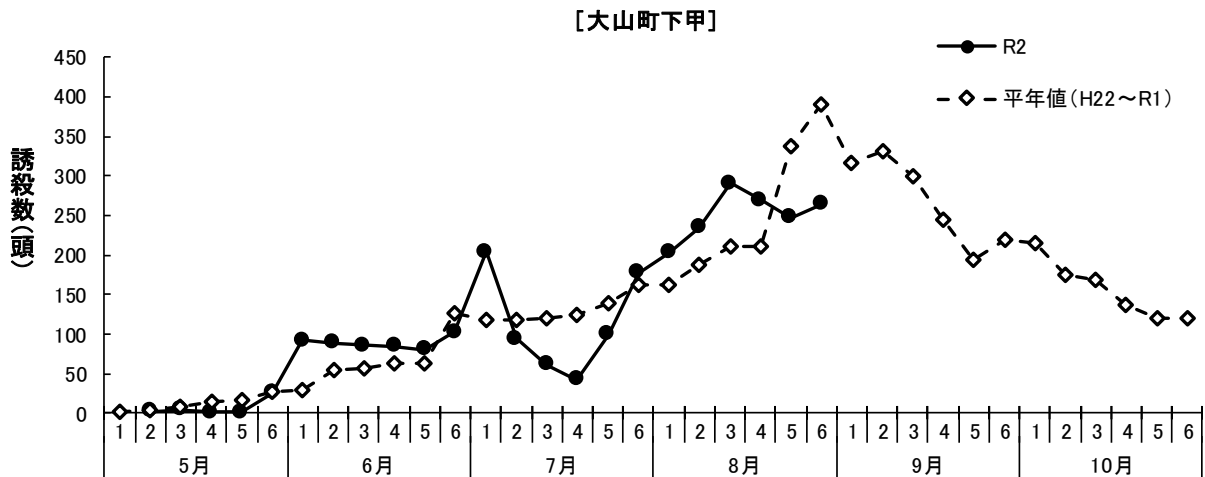
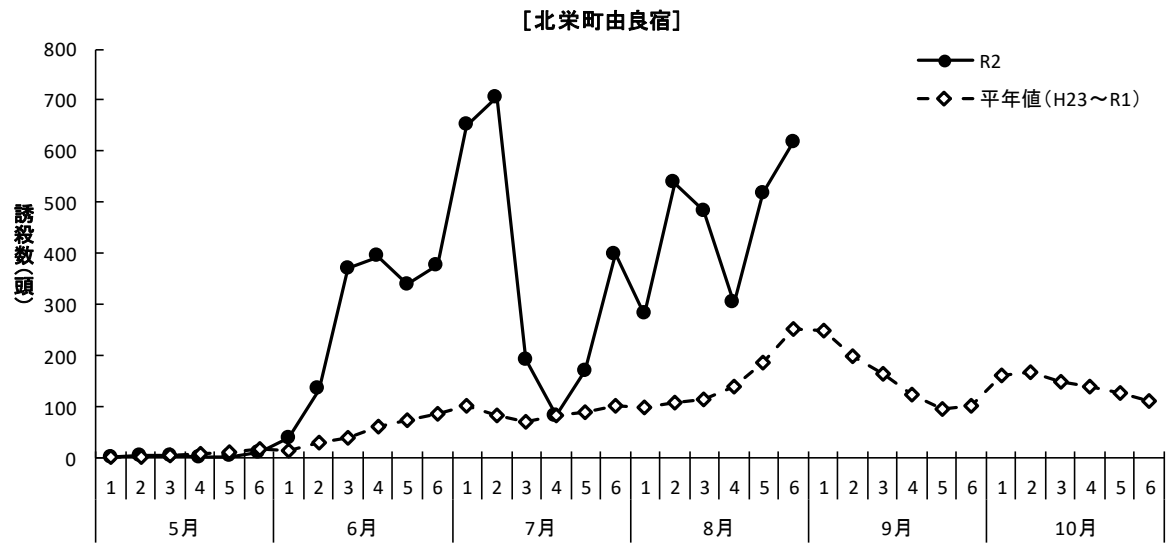
1 発生状況

(1) 8月第6半旬現在、フェロモントラップによるハスモンヨトウの誘殺数は、平年より多い。また、フェロモントラップの誘殺ピークは9月上旬ごろと予想される。

【ダイズほ場調査】



【野菜ほ場調査】



- (2) 現在、7月上旬までに播種を行ったダイズほ場では白変葉が増加しはじめており、今後、被害が増加すると予想される。
- (3) 8月下旬現在、巡回調査定点のブロッコリー場では寄生株率13.7% (平年: 2.4%)、発生ほ場率85.7% (平年: 33.9%) であり、発生量は多い。葉裏に卵塊が確認されており、今後、被害が増加すると予想される。

2 防除上注意すべき事項

(1) ダイズ

- ア 若齢幼虫の加害によって発生する白変葉の早期発見に努める。これまでにチョウ目害虫の食害を受けているほ場では、特に注意が必要である。
- イ 防除の目安は、1 a 当たりの白変か所数5か所以上とする。
- ウ 若齢幼虫 (体長1 cm 以下) に対する登録農薬の効果は高いが、齢期が進むと防除効果が低下するため、散布適期を失しないようにする。なお、中齢～老齢幼虫が混在する場合は、ジアミド系殺虫剤を散布する。

(2) 野 菜

ア 薬剤の感受性が高い若齢幼虫期（体長 1 cm 以下）に防除を行う。食害痕が見られ始める頃が防除適期である。

イ 食害痕は不整形の白斑となり、更にかすり状に透けて見える。はじめ卵塊から孵化した幼虫は集団で産卵場所やその周辺にとどまり、葉の表皮を残して葉肉部を食害する。ほ場内を観察し、食害痕が目立つ株に注意する。

ウ 食害痕および若齢幼虫の発生が見られた場合には、地域の防除暦や病害虫防除指針等を参照し薬剤防除を行う。



図1 ハスモンヨトウ成虫



図2 ハスモンヨトウ幼虫（老齢）



図3 ハスモンヨトウ卵塊（上）と若齢幼虫（下）



図4 ハスモンヨトウ若齢幼虫による
ダイズの白変葉